

仕訳のイロハ

複式簿記では、実際の取引を仕訳していきます。

取引は、事業の財産が変化したときに発生します。
例えば、以下のようなものが取引になります。

(例) 農産物を売って現金1万円を得た → 現金1万円という財産が増える

また、取引には必ず二面性があります。

上の例では、「農産物を売った」という面と、「現金1万円を得た」という面があるということです。

この二面性を上手に記録出来る方法が複式簿記です。

仕訳ルールの基本は以下のとおりです。

*左右に分けて、取引内容と金額を記入する。

*現金等の「資産」は、手許に増えれば左に、減れば右に記入する。

*左側を「借方」、右側を「貸方」と言う。

前述の例を仕訳ルールにより記帳すると、以下のようになります。

(例) 現金 10,000 / 売上 10,000

ちなみに、預金から現金を2万円引き出したという場合は、手許の現金が増えたので左、預金は減ったので右となります。

現金 20,000 / 預金 20,000